

各技術分野の進捗状況について

～平成15・16年度の技術分野・実証技術数～

15年度

16年度

酸化エチレン処理(6)

- 東京都(6)

有機性排水処理(8)

- 石川県(2)
- 広島県(2)
- 大阪府(4)

山岳トイレ(2)

- 富山県(2)

15年度開始分野

酸化エチレン処理(2)

- 東京都(2)

山岳トイレ(4)

- 長野県(1)
- 静岡県(1)
- 神奈川県(1)
- NPO山のECHO(1)

小規模有機性排水処理(10)

- 福島県(1)
- 埼玉県(2)
- 広島県(3)
- 大阪府(2)
- 香川県(2)

ヒートアイランド対策(4)

- 大阪府(4)

VOC処理(2)

- 東京都(2)

化学物質簡易モニタリング(8)

- 山口県(4)
- 兵庫県(2)
- 愛知県(2)

16年度開始分野

3分野5機関(16技術)

6分野15機関(30技術)

* カッコ内は実証技術数。赤字は2回目以降の参加団体。

酸化エチレン処理技術分野の進捗状況及び今後の予定について

1. 平成17年度の進捗状況

(1) ワーキンググループ（WG）開催経緯等

「VOC処理技術WG」において、VOC処理技術分野（ジクロロメタン等有機塩素系脱脂剤処理技術）と併せて検討を行っている。

（酸化エチレン処理技術関係）

17年3月 8日 平成16年度第6回WG開催

5月25日 平成17年度第1回WG開催

（6月30日 平成17年度第2回WG開催）

※第2回WGはVOC処理技術分野について検討

(2) 実証試験状況等

平成17年度第1回のWG会合において、酸化エチレン処理技術分野については、手数料徴収体制への移行に際し、技術分野固有の課題が残されていることから、「平成17年度環境技術実証モデル事業実施要領」の規定により、平成17年度は手数料徴収体制の検討に専念することとし、実証機関の公募・選定及び技術の公募は行なわないこととした。

また、手数料の検討に関する分科会を設置し、その検討結果を踏まえ、年度内に「酸化エチレン処理技術実証試験要領（第3版）」を策定し、平成18年度以降の手数料徴収体制の下での事業の実施に向けた準備を行なうこととした。

（WG検討員名簿は資料2-1-2参照）

2. 今後の予定

- 平成17年10月頃に、VOC処理技術WG分科会（非公開）とし、手数料徴収体制における手数料項目等の検討を行なう予定。

平成 17 年度環境技術実証モデル事業検討会
VOC 処理技術ワーキンググループ 検討員名簿

- 岩崎 好陽 元 東京都環境科学研究所 参事研究員
- 小渕 存 (独)産業技術総合研究所環境管理研究部門 浄化触媒
研究グループ長
- 加藤征太郎 中央大学理工学部 講師
- 坂本 和彦 埼玉大学大学院理工学研究科 教授
- 志賀 孝作 東京都鍍金工業組合 環境科学研究所 所長
- 土井 潤一 日本産業洗浄協議会 理事
- 中杉 修身 上智大学大学院 地球環境学研究科 教授
- 山川 洋平 武蔵野赤十字病院 事務部長 (元 東京都衛生局
薬務部長)

小規模事業場向け有機性排水処理技術分野の
進捗状況及び今後の予定について

1. 平成17年度の進捗状況

(1) ワーキンググループ（WG）開催経緯等

17年3月31日	平成16年度第3回WG開催
5月24日～6月3日	実証運営機関の公募
6月23日	平成16年度実証試験結果報告書の公表

(2) 実証試験状況等

実証運営機関選定中

2. 今後の予定

- 実証運営機関の選定（7月下旬頃）、WGの設置
- 実証試験要領の見直しの検討
- 実証機関の公募・選定 等

山岳トイレ技術分野の 進捗状況及び今後の予定について

1. 平成 17 年度の進捗状況

(1) ワーキンググループ（WG）開催状況等

17年 5月24日～6月3日 実証運営機関の公募
今年度、WG検討会は5回程度開催する予定

(WG検討員名簿は資料 2-3-2 参照)

(2) 実証機関における実証試験の進捗状況等

- ① 長野県(16年度から継続)
 - 実証対象技術：生物(好気性)・土壌処理方式
実証試験再開。
- ② 静岡県(16年度から継続)
 - 実証対象技術：生物処理方式(かき殻を利用した浄化循環式トイレ)
実証試験再開。
- ③ 神奈川県(16年度から継続)
 - 実証対象技術：土壌処理方式
実証試験再開。
- ④ 富山県(16年度から継続)
 - 実証対象技術：コンポスト処理方式
実証試験再開。

2. 今後の予定

- ・実証試験要領の改訂。
- ・実証機関の公募、選定。

3. その他

実証試験の効率化に向けた小委員会での検討結果

- (1) 申請資料の充実
- (2) 試験場所の条件緩和
- (3) 試験期間の見直し
- (4) 室内環境計測の簡素化
- (5) 分析方法の一部簡素化
- (6) 試料採取回数の見直し
- (7) 越冬試験の簡素化

平成 17 年度環境技術実証モデル事業検討会
山岳トイレし尿処理技術ワーキンググループ 検討員名簿

- 柏原 一正 (有)鹿島槍観光開発(冷池山荘、種池山荘、新越乗越山荘)
桜井 敏郎 三井造船(株) 環境・プラント事業本部長付
鈴木 富雄 長野県環境保全研究所主任研究員
船水 尚行 北海道大学大学院工学研究科教授
森 武昭 神奈川工科大学電気電子工学科教授 <座長>
吉田 孝男 NPO環境資源保全研究会代表
渡辺 孝雄 (財)日本環境整備教育センター調査研究部主幹

(50音順、敬称略)

＜化学物質に関する簡易モニタリング技術分野＞
の進捗状況及び今後の予定について

1. 平成17年度の進捗状況

(1) 実証試験要領の策定

17年 5月16日 実証試験要領（第2版）の公表

(2) 実証機関の選定

17年 5月16日 実証機関の公募

～ 6月 3日 (地方公共団体6団体)

17年 6月29日 第1回ワーキンググループ会合の開催
(実証機関の検討・選定)

17年 6月30日 実証機関選定結果の公表
(岩手県、愛知県、兵庫県、
鳥取県、山口県、名古屋市)

2. 今後の予定

- 各実証機関において技術実証委員会を立ち上げ、実証対象技術の募集・選定を8月中に行う予定

平成 17 年度環境技術実証モデル事業検討会
化学物質簡易モニタリング技術ワーキンググループ
検討員名簿

座長 有菌 幸司 熊本県立大学環境共生学部 教授

門上希和夫 北九州市環境科学研究所

アクア研究センター 課長

白石 寛明 独立行政法人国立環境研究所

化学物質環境リスク研究センター長

中澤 裕之 星薬科大学薬品分析化学教室 教授

西村 哲治 国立医薬品食品衛生研究所

環境衛生化学部 第三室長

(五十音順、敬称略)

ヒートアイランド対策技術分野（空冷室外機から発生する顕熱抑制技術）
の進捗状況及び今後の予定について

1. 平成17年度の進捗状況

(1) ワーキンググループ（WG）開催経緯等

17年 3月28日	平成16年度実証試験結果報告書の公表
4月20日	実証試験要領（第2版）の公表
4月20日～5月18日	実証機関の公募
5月25日	平成17年度第1回WG開催
5月30日	実証機関選定の公表
6月14日～7月13日	実証機関において実証対象技術の募集
7月22日～8月12日	実証機関において実証対象技術の追加募集

（WG検討員名簿は資料2-5-2参照）

(2) 実証試験状況等

実証機関：大阪府

中核となる地方環境研究所名：大阪府環境情報センター
実証対象技術数：4技術を想定

2. 今後の予定

- 実証機関において実証対象技術を選定
- 実証機関において実証試験計画の策定及び実証試験の実施@
- 平成17年1月頃、実証試験結果報告書を検討する第2回WGを開催予定

平成 17 年度環境技術実証モデル事業検討会
ヒートアイランド対策技術ワーキンググループ 検討員名簿

足永 靖信	独立行政法人 建築研究所環境研究グループ 上席研究員
木内 俊明	特定非営利活動法人耐震総合安全機構 理事
久保 忠義	環境農林水産部みどり・都市環境室地球環境課 参事
佐土原 聡	横浜国立大学大学院環境情報研究院 教授
下田 吉之	大阪大学大学院工学系研究科 助教授
森川 泰成	大成建設株式会社建築技術研究所 ニューフロンティア技術開発室 室長

VOC処理技術分野（ジクロロメタン等有機塩素系脱脂剤処理技術） の進捗状況及び今後の予定について

1. 平成17年度の進捗状況

(1) ワーキンググループ（WG）開催経緯等

「VOC処理技術WG」において、酸化エチレン処理技術分野と併せて検討を行っている。

（ジクロロメタン等処理技術関係）

17年 5月25日	平成17年度第1回WG開催
6月 9日	実証試験要領（第2版）の公表
6月 9日～6月23日	実証機関の募集
6月30日	平成17年度第2回WG開催
7月11日	実証機関選定の公表

(2) 実証試験状況等

実証機関：東京都

中核となる地方環境研究所名：東京都環境科学研究所

実証対象技術数：4技術を想定

（WG検討員名簿は資料2-1-2参照）

2. 今後の予定

- 平成17年8月中旬に、実証機関において、実証対象技術を募集予定。
- 平成17年10月頃に、VOC処理技術WG分科会（非公開）とし、手数料徴収体制における手数料項目等の検討を行なう予定。

非金属元素排水処理技術分野（ほう素等排水処理技術）
の進捗状況及び今後の予定について

1. 平成17年度の進捗状況

(1) ワーキンググループ（WG）開催経緯等

平成17年 1月20日	平成16年度第1回WG開催
2月9日～3月2日	実証試験要領についてパブリックコメントの実施
3月16日	平成16年度第2回WG開催
3月29日	実証試験要領の公表
4月4日～4月18日	実証機関の募集
5月25日	平成17年度第1回WG開催
5月31日	実証機関選定の公表
7月11日～7月25日	実証機関において実証対象技術の募集

(WG検討員名簿は資料2-7-2参照)

(2) 実証試験要領策定にあたっての特記事項

平成17年3月29日 初版公表

天然由来のほう素含有排水（温泉旅館の排水）処理技術と人為的なほう素含有排水（めっき工場の排水）処理技術の両方に対応している。

(3) 実証機関選定

実証機関：千葉県

中核となる地方環境研究所名：千葉県環境研究センター

実証対象技術募集予定数：1技術

募集機関：平成17年7月11日（月）～7月25日（月）

2. 今後の予定

- 実証機関において実証対象技術の選定、実証試験計画の策定及び実証試験の実施。
- その後、実証試験結果報告書を検討するWGを開催予定。

平成 17 年度環境技術実証モデル事業検討会
非金属元素排水処理技術ワーキンググループ 検討員名簿

小坂 幸夫 東京都立産業技術研究所 製品開発部
資源環境科学グループ長

滝沢 英夫 (財) 中央温泉研究所 第一部 研究員

名取 眞 (社) 日本産業機械工業会 国際環境技術協力センター 顧問

藤田 正憲 高知工業高等専門学校 校長

宮崎 章 (独) 産業技術総合研究所つくばセンター
環境管理技術研究部門計測技術研究グループ
テクニカルスタッフ

湖沼等水質浄化技術分野の進捗状況及び今後の予定について

1. 平成17年度の進捗状況

(1) ワーキンググループ(WG)開催経緯等

17年 3月22日	平成16年度第3回WG開催 (実証試験要領の策定)
3月30日～ 4月13日	実証機関の募集
4月25日	平成17年度第1回WG開催 (実証機関の選定)
5月16日	実証機関選定の公表
5月19日～ 6月15日	各実証機関において実証対象技術の募集
6月29日	WG第1回関係者連絡協議会開催 (実証試験計画書策定に向けた意見交換)
7月 4日	実証対象技術選定の公表

現在、各実証機関において実証試験計画書の作成作業中
(WG検討員名簿は資料2-8-2参照)

(2) 実証対象技術

実証機関名	技術・製品の名称
埼玉県	リン吸着材による水質浄化システム(水没型PCP)
	TAWS(池・沼の水質浄化・活性化システム)
	ハイブリッド型植生浮島
大阪府	微細気泡による水質浄化技術(マイクロアクアシステム)
広島県	水質浄化装置「みずきよ」
香川県	エカローシステム
愛媛県	直接曝気方式(ジェットストリーマー)

2. 今後の予定

各実証機関において、実証試験計画の策定後実証試験を実施

平成 17 年度環境技術実証モデル事業検討会
湖沼等水質浄化技術ワーキンググループ 検討員名簿

- | | |
|-------|-----------------------|
| 岡田 光正 | 広島大学工学研究科長・工学部長 |
| 島谷 幸宏 | 九州大学大学院工学研究院環境都市部門 教授 |
| 田中 仁志 | 埼玉県環境科学国際センター水環境分野 主任 |
| 福島 武彦 | 筑波大学大学院生命環境科学研究科 教授 |
| 水口 定臣 | 愛媛県環境局環境政策課 水環境係長 |